

濃度測定と回収率 同時に収集

福大が新技術開発

ストロンチウム計測

福島大は11日、放射性ストロンチウムの計測をこれまで以上に正確に行う新技術を開発したと発表した。

同大は、東京電力福島第1



新技術を説明する

高員准教授

原発の廃炉作業で発生する汚染水の分析の加速化が期待できるとしている。

新技術は、放射性ストロンチウムの濃度の測定値を補正するために必要な数値である「回収率」を、濃度測定と同時に得ることができるとしている。従来は回収率は放射線ストロンチウムの濃度測定とは別に測定しなければならず、手間と時間がかかっていた。新技術では即時に正確な分析値を得ることができるとしている。

同大の放射性ストロンチウム分析装置は第1原発の現場で活用されているが、この新技術を導入することで作業の加速化が見込めるという。

同大の高員慶隆共生シス

テム理工学類准教授と同大客員研究員でパーキンエルマー（横浜市）に所属する古川真氏が開発に当たった。高員准教授が11日、同大の定例記者会見で発表した。